

3 スポーツ

1年間に「スポーツ」を行った人は約85万人、行動者率は約67%

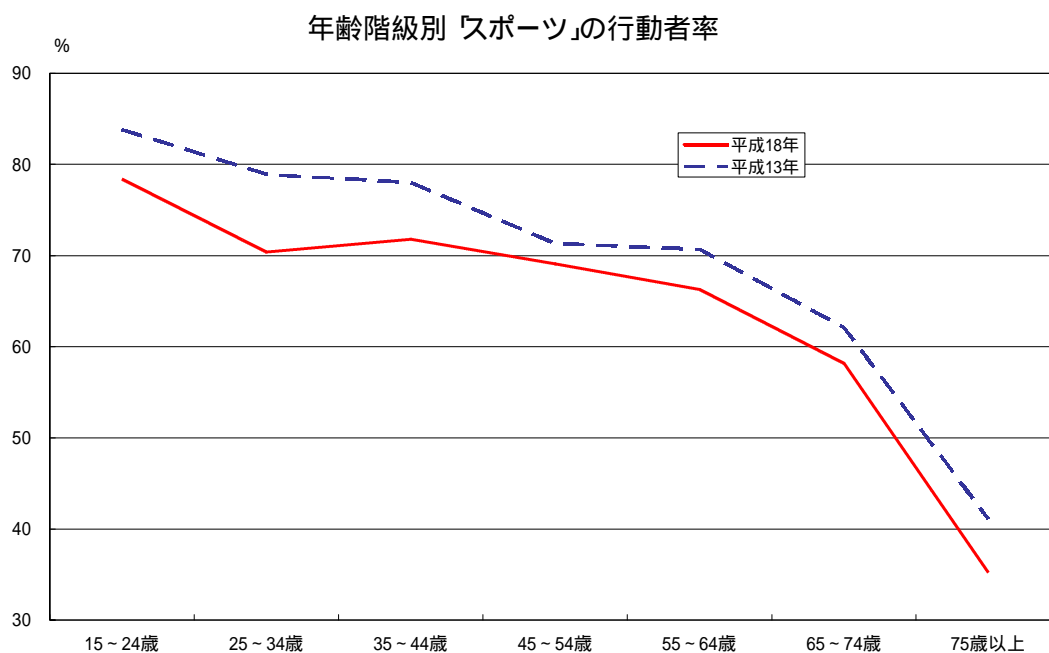
過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は84万5千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は、66.9%で、全国平均より1.6ポイント上回っている。行動者率を平成13年と比較すると、6.0ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は73.1%（行動者数43万7千人）、女性は61.4%（40万9千人）で男性が女性より11.7ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると男性は6.4ポイント、女性は5.7ポイント、それぞれ低下している。

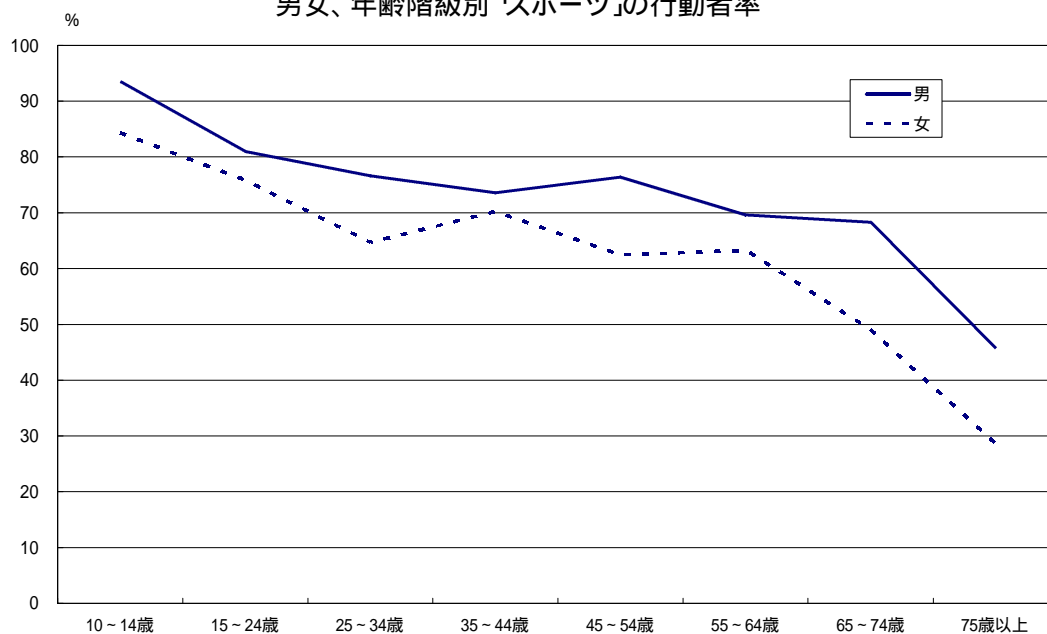
各年齢層で「スポーツ」の行動者率が大きく低下

「スポーツ」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、15～24歳が最も高くなっており、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを平成13年と比較すると、すべての年齢階級で低下している。25～34歳が8.5ポイント低下しており低下幅が最も大きい。

また、男女別に見ると、すべての年齢階級で男性が女性より高くなっている。



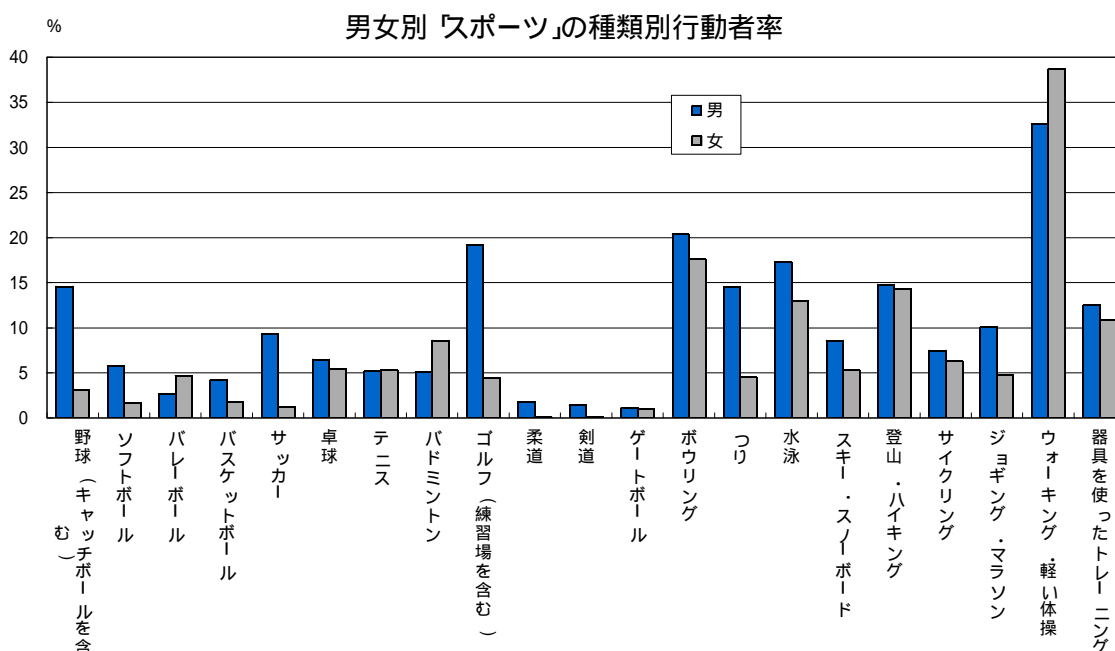
男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



「ウォーキング・軽い体操」の行動者率は35.8%

「スポーツ」を行った人を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が45万2千人（行動者率35.8%）と最も多く、次いで、「ボウリング」が23万9千人（19.0%）、「水泳」が19万人（15.0%）、「登山・ハイキング」が18万4千人（14.6%）となっている。

種類別の行動者率を全国平均と比較すると、「登山・ハイキング」、「ゴルフ（練習場を含む）」、「水泳」の順で上回り、逆に「サイクリング」、「バレーボール」、「ジョギング・マラソン」の順で下回っている。



中高年層では「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い

「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、若年層は多くの種類で行動者率が高く、スポーツ活動が盛んである。10～14歳では、「水泳」が最も高く、次いで、「ボウリング」、「野球 (キャッチボールを含む)」などとなっている。15～34歳では、「ボウリング」、「ウォーキング・軽い体操」、「水泳」の順となっている。35歳以上では、「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が高くなっているが、2番目以降に高い種類は年代によって異なり、35～44歳では、「水泳」、「ボウリング」、45～54歳では、「ゴルフ (練習場を含む)」、「登山・ハイキング」、55～74歳では、「登山・ハイキング」、「ゴルフ (練習場を含む)」、75歳以上では、「ゲートボール」、「器具を使ったトレーニング」の順となっている。

行動者率が上昇したのは「サッカー」、それ以外の種類で低下

平成13年と比較可能な「スポーツ」の種類について行動者率をみると、平成13年に比べ上昇したものは「サッカー」(0.2ポイント上昇)のみで、それ以外の種類で低下している。低下幅の大きい順に「ウォーキング・軽い体操」(9.3ポイント低下)、「水泳」(7.1ポイント)、「つり」(4.7ポイント)、「ボウリング」(4.3ポイント)などとなっている。

注：「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。